

器具・器材の管理に関する相談

相談４：インフルエンザ罹患者に使用した物品の消毒方法について

(相談内容)

インフルエンザ罹患者に使用した体温計や食器などにアルコールを噴霧していますが、消毒効果はあるのでしょうか。消毒効果がないのであれば、消毒方法について教えてください。

(回答)

消毒液の噴霧を行うと、消毒薬を大量に吸入したり、目に浴びたりするなど、人体に悪影響を与える恐れがあります。また、噴霧法は清拭法に比べて効果が不確実です。これらの理由により、消毒薬の噴霧は好ましくありません。

季節性インフルエンザウイルスに効果のある消毒薬は、アルコール（消毒用エタノール）、次亜塩素酸ナトリウム、ポビドンヨードなどがあります。

患者が頻繁に使用する物品（体温計、吸い飲み、血圧計、駆血帯など）は、患者専用として管理することが望ましいです。共有する場合は病原体を他の患者に伝播させないように、洗浄可能な物品は洗浄し、消毒用エタノールや次亜塩素酸ナトリウムでの消毒が必要となります。

使用後の体温計はアルコール綿にて、体温計全体を拭き取り消毒をします。2度拭きをすることで、より確実な消毒効果を得ることができます。

体温計ケースは、製造メーカーにより可能な洗浄・消毒方法が異なるので確認し、可能であれば定期的に中性洗浄剤などで洗浄し乾燥させてください。体温計を患者専用とした場合には、使用しなくなればケースは洗浄後に0.01%次亜塩素酸ナトリウム液にて1時間浸漬消毒後に乾燥させてください（食器乾燥機での乾燥がより望ましい）。

吸い飲みは、使用後に中性洗浄剤で洗浄後、0.01%次亜塩素酸ナトリウム液に1時間浸漬消毒後に乾燥させてください（食器乾燥機での乾燥がより望ましい）。その他の食器類は通常の処理で問題ありません。

参考文献：

- 1) 医療施設における消毒と滅菌のためのCDCガイドライン 2008.
- 2) 鍋谷佳子・矢野邦夫, 感染対策素朴なギモン解決メソッドQ&A, メディカ出版, 2016.
- 3) 尾家重治, 病棟で使える消毒・滅菌ブック, 昭林社, 2014.